



第5回自然と親しむ子ども山登り教室終了！

今年度の、「自然と親しむ子ども山登り教室」全日程が終了しました。今年は、子どもたちの参加が2名だけと少なかったのですが、最後の蝶ヶ岳まで、全ての山に予定どおり登頂しました。最後の蝶ヶ岳では、小6のK君が、転落して頭にコブを作ってしまうハプニングがありました。コブ以外には内部にも外部にも問題

はなく、元気に下山してきました。

ライチョウやサルに出会ったり、2重のプロッケンを見たり、雄大な雲海を見たり、平地では決して見ることはできない貴重な体験をすることができました。最後までがんばった努力は、子どもたちを大きく成長させてくれたものと思います。

★扇山(6月12日)報告

参加者 子ども2名
スタッフ5名
別働隊 スタッフ2名
会員(障害者3名、健常者5名)

感謝です。

ゴルフ場の脇を歩くようになるが、ジグザグの車道の脇に真っ直ぐ登る山道があったので、そちらを歩く。また車道に戻って、梨の木平を目指す。

2回目となる今回は、山梨県の富嶽十二景に選ばれている扇山だ。

梅雨の季節なので、雨が心配だったが、青空が見られなかったものの、一度もふられず、山頂からはうっすらと富士山も見られて、まずまずの天気だった。

鳥沢駅からは、しばらく舗装道路を歩く。中央高速道路の下を通り抜け、道なりに登っていく。いろいろ曲がりくねった道なので間違いやすいのだが、指導標がしっかりしているおかげで、間違えることなく歩ける。地元のみなさまに



とてもおいしかったモミジイチゴ

車道の脇には、モミジイチゴがたくさんの実を付けている。完熟の実がこんなにたくさんなっているところには初めて出会った。おいしく熟した実を食べながら歩き、梨の木平には、予定よりも30分ほど遅れて到着する。

ここまでゆっくりペースで来たので、「ここからは真剣に登るよ」と、子どもたちにハッパ

をかける。子どもたちに前の方に来てもらい、登り始める。次第に傾斜が増し、ジグザグに登るようになる。右手を流れていた沢が近づいてくると、山の神の手前にある水場となる。Sさんがサワガニを見つけたようだ。サワガニを見つけたくらいで「さわがにい」ようになど、駄洒落をいいながら、さらに登っていく。

白い花を付けたマルバウツギやガクウツギがきれいに咲き、足下にはフタリシズカがたくさん咲いている。ツツドリやホトトギスの声、さらにヤブサメやキビタキの声も聞こえてくる。しかし、今年は、オオルリを全く聞いていない。去年は、いろんな山で出会ったのに、南の国で何かあったのではないかと心配になる。



山頂への急坂を登る

途中、ツツジの群生地入口と書かれた場所で休憩する。そこから、うっすらと富士山が見えた。期待していなかっただけに、とてもうれしかった。さらに登っていくと、木々の間から白い空が少しずつ見られるようになってきた。傾斜が落ち、やや左側を回り込むように登っていくと、大久保のコルに到着した。

山頂まであと少しなので、5分ほど立ち休憩をして最後の登りにかかる。この稜線には、まだヤマツツジがきれいに咲いていた。しかし、短い距離だが、急登もある。急登が終わり、平らになったところが山頂かと思ったが、もう少し先だった。しかし、すぐに開けた山頂に到着する。うっすらだが富士山が見えた。

富士山を見ながら昼食を食べ、集合写真を撮

って下山にかかる。当初の予定では、山頂から君恋鉱泉に下り、そのまま鳥沢駅まで歩く予定だったが、鉱泉に入りたいという要望もあり、鉱泉に入って、タクシーで鳥沢駅に行くことに予定を変更する。



扇山山頂にて

扇山からの尾根は、比較的歩きやすい。山谷への分岐に着くと、君恋鉱泉はこちらという看板が立っている。このあとも、何度か看板を見つけた。

次の分岐で、尾根を外れて、君恋鉱泉への下り道に入る。登りは何度か休ませてと言っていたSちゃんだが、下りは得意なようだ。お兄ちゃんより早くぐんぐん下っていく。しかし、お兄ちゃんもすぐに追いついた。

大滝不動付近の道は、階段や栈道があり、滑りやすいので慎重に歩く。ここを過ぎて、階段を登り、さらに下っていくと、君恋鉱泉に到着した。お風呂は、女風呂しか湧かしていないということだったので、男性はシャワーのみとする。汗を流して、すっきりしたあとは、ちょっと休憩をして、タクシーを呼ぶ。全員が一度に乘れるだけのタクシーがないということなので、2台で鳥沢駅までピストンしてもらう。

予定どおりの電車で帰ることができたが、Sちゃんはかなり疲れたようだった。それでも、他の人たちと歩くことも慣れ、お兄ちゃんと一緒に山を楽しめるようになってきたのではないだろうか？

コースタイム

鳥沢駅(9:10)…梨の木平(10:45-11:00)…
水場(11:35-11:40)…大久保のコル

(12:30-12:35)…扇山(12:45-13:20)…君
恋鉱泉への分岐(13:50)…君恋鉱泉(14:35)

★雲取山(7月9日～10日)報告

参加者 子ども2名
スタッフ5名
別働隊 スタッフ1名
会員(障害者1名、健常者3名)

☆7月9日

お祭でバスを下車すると、焼けた舗装道路の影響もあり、猛烈な暑さだった。トイレに行った人たちに早く戻ってきてもらって、出発したかったが、トイレは1個しかなく、時間がかかっているようだ。それでも、みんなが戻ってきたら、さっと自己紹介をし、準備運動をして出発する。

青梅街道から後山林道に入ると、木陰もあり、グッと涼しくなる。上空を見上げると、もくもくと背の高い夏雲が広がっている。夕立の来る前に小屋に着きたいものだ。

今年なかなか見ることでできなかったオオルリが、木の枝に止まってさえずっている。逆光のため、瑠璃色はほとんど見られなかったが、向きを変えた時に白いおなかを見ることができた。



美しいカラスアゲハ

さらに林道を登っていくと、きれいなカラスアゲハが舞っている。足下では、背中の黄色いハートがきれいなエサキモンキツノカメムシを見つけることもできた。

塩沢橋のところで昼食を取り、林道終点には14時過ぎに到着する。ここから沢沿いに登っていく。落ちたら100mくらい下の沢まで転がってしまうため、慎重に歩く。途中で、ポツポツ降り出した雨は、あっという間に本降りになってしまった。雨具を着て、また歩きはじめる。

しばらくすると、テントが見えてきた。三条の湯はすぐその先だ。受付を済ませ、すぐに温泉に入りに行く。当然、洗剤などは使えないが、汗を流すことができ、最高に気持ちよかった。

明日の朝は、3時半起床のため、18時に夕食を食べた後は、すぐに床についた。

☆7月10日

3時40分頃、起床して、出発準備にかかる。水筒に水を満たし、4時35分に出発する。今日は、長丁場のため、小4のSちゃんが歩き通すことができるか心配だった。

出発の頃には、すでにヘッドランプは不要だったため、しまって歩きはじめる。滑りやすい木の橋を超え、右側が切れたちょっとした危険地帯を登っていく。子どもたちは順調に登ってくる。水無尾根を回り込む手前では、朝日を浴びた天平(でんでえろ)尾根が見えてきた。今日は、雲一つない最高の天気だ。小6のお兄ちゃん、K君と「今年の山登り教室で一番良い天気だね」といいながら、さらに登っていく。

通行止めとなっている青岩鍾乳洞への分岐を過ぎ、トラバース気味に登っていくと、見晴

の良いところに出る。飛龍山がよく見える。ここで、朝食タイムとする。歩いていると、さすがに暑いが、木陰に入ると気持ちよい。



展望の良いところで朝食タイム

水無尾根をトラバース気味に、ぐんぐん登っていく。Sちゃんも、TさんとKさんにサポートされて、しっかりと登っている。

次第に木々の間から周囲の山が見えるようになってくると、富士山を見つめることができた。くっきりと姿が見えるが、すでに東側には雲がわき始めていた。



逆光に映えるカエデ

これから向かう先には、雲取山も見えてきた。カケスを見たり、ハルゼミを見たりしながら、斜面をトラバースしていく。何度か栈道を超え、高度を上げていくと、左の尾根の天辺が近づいてきて、三条ダルミに到着する。

富士山がよく見え、手前には雁ヶ腹摺山が見え、その左には大菩薩嶺が見えている。素晴らしい天気だが、すでに富士山の山頂は雲に隠れ始めていた。

三条ダルミは、3年前に来た時は、非常に多くの虫に襲われたが、今回はそれほどでもな

かった。しかし、ここからの登りには、多くの虫が控えていた。うるさい虫を払いながら、最後の急登をがんばる。ふり返ると、飛龍山の向こうに南アルプスが見えるようになってきた。



好展望の三条ダルミに到着

ようやく樹林の切れ間が見え、避難小屋の横に飛び出した。これ以上ない最高の展望が広がっていた。ただ、富士山はすでに雲に隠れて見えなかった。子どもたちは、写真を取り合っている。

避難小屋に行くと、虫たちが大集合してきた。Sちゃんは、虫が嫌で、涙を流している。虫除けも全く効かない。少し遅れていたメンバーが到着したところで、空身で山頂を往復する。山頂からは、奥秩父の主脈がよく見え、遠くに国師ヶ岳と甲武信ヶ岳が見えていた。北岳や甲斐駒ヶ岳、仙丈岳の南アルプスもよく見えている。また、これから向かうセツ石山方面もよく見える。今日は、本当に素晴らしい天気だ。



雲取山山頂にて

Sさんが持ってきたネットをSちゃんにかぶせてあげると、さすがに顔の付近には虫は来

なくなったようだが、帽子が下がって見えにくいなどで、途中でネットを外した。尾根筋は、山頂付近ほど虫が来なくなって、Sちゃんも快調に歩いている。



この石尾根は、防火帯があって、見晴が良く、気持ちの良い尾根だ。ヘリポートを過ぎ、少し下ったところで、奥多摩小屋に到着。七ッ石山は巻こうと思ったが、最後のピークなので登ろうということになり、ブナ坂から最後の登りをがんばった。この登りは、Sちゃんにとって自信になったのではないだろうか？ 二つのピークを登ったと言って、喜んでいた。



山頂からふり返ると、登ってきた雲取山がよく見える。赤とんぼが無数に飛んでいる。Sさんは、赤とんぼが虫を食べるから、この付近には虫が来ないんだよと子どもたちに教えている。私も、なるほどと納得。

山頂は日当たりが強く、暑すぎるので、下の水場か七ッ石小屋でお昼を食べることにして、下山にかかる。

水場の水は、冷たくてとてもおいしかった。

水筒の水も全て入れ替えた。水場付近は、座れる場所がないので、七ッ石小屋まで行って、小屋の脇の広場で昼食とした。K君は、雲取山や七ッ石山など石尾根上の山の名前が入ったバッジを小屋で買っていた。

ここからはぐんぐん下る。途中でマウンテンバイクで登ってきた人たちに会ったり、水筒を落としてしまったと引き返して登ってきた山岳ランナーにも会った。どちらもすごい人たちだ。

この登り尾根は、コースタイム以上に長く感じる下りだが、みんな順調に下りてきている。左下に林道が見えても、なかなか着かないんだよとK君に言いながら下ってきたが、非常に順調で、今までここを下った中で、最も順調だったのではないだろうか？

林道に降り立ち、ホッと一安心。ただ、この頃からポツポツと雨が降り始めてきた。ただ、すぐに止んで雨具を着ることはなかった。

先に下りたAさんコンビとMさんは、近道を見落とし、車道をそのまま下っていったようだ。後から出発した私たちが先に、バス停に到着し、着替えなどをしていると、Mさんが車道を歩いてきた。とにかく、全員無事に、しかも順調に下山できて、ホッと一安心でした。みなさまのご協力とがんばった子どもたちに感謝です。

バス停で待っていると、三条の湯で一緒だった、若い女性3人組が下りてきた。バスの中で、Aさんコンビから名刺を渡していただく。機会があったら、ご一緒できると良いですね。Aさんコンビにさらに感謝です。

コースタイム

7/9 お祭(10:35)…塩沢橋(12:20-12:35)
…三条の湯(14:45)

7/10 三条の湯(4:35)…三条ダルミ
(7:40-7:50)…雲取山(8:45-9:05)…
奥多摩小屋(9:40-9:50)…七ッ石山

(10:25-10:35) … 七 ツ 石 小 屋
(11:00-11:30) … 堂 所

(12:10-12:20) … 鴨 沢 (14:00)

★蝶ヶ岳(7月30日～8月1日)報告

参加者 子ども2名
スタッフ3名
別働隊 スタッフ1名
会員(障害者2名、健常者3名)

☆7月30日

今回は、第5回自然と親しむ子ども山登り教室の最後となる蝶ヶ岳だ。天気予報があまりよくないのが気かりだが、K君は、星座早見盤を持ってきて、自由研究の課題にするのだと張り切っている。何とか、少しでも晴れ間が出てほしいと願い、上高地に向かう。

上高地は、曇り空で穂高連峰などは見えないものの、雨はふっていないかった。観光センターで昼食を取り、準備をして出発する。



河童橋にて

まずは、河童橋で記念撮影。子どもたちは、橋の下に下りて沢で少しだけ遊ぶ。今日は梓川右岸を歩くことにする。上高地らしい豊かな緑と、緩やかな沢の流れが美しい。沢の中にいる岩魚を探したり、花を見たり、蝶やキビタキを探したりしながらゆっくりと歩く。



サルの群がいました

明神を過ぎて、徳沢に向かってしていると、サルが現れた。1頭でいるわけではないと思っていると、少し歩いたところで、数頭が林道に出て歩いている。この付近にいつもいるサルの集団だった。



とてもきれいなコムラサキ

徳沢ロッヂまでもう少しというところで、雨がふりだした。少し強くなってきたので、カッパを着て歩く。徳沢ロッヂでは、すぐに風呂に入ってゆっくりする。YさんやTさん、Fさんが、子どもたちとトランプをして遊んでくださる。本当にありがたいスタッフです。

☆7月31日

昨晚は、残念ながら星が見えなかったが、今朝は曇っているものの、予報では午後から雨なので、予定どおり横尾まで行って、そこから蝶

ヶ岳を目指すことにする。



徳沢ロッジにて

センジュガンピやソバナなどの花を見ながら歩く。オオルリがよく見えるところでさえずるサービスもしてくれた。写真大好きなK君は、うまく写真を撮ることができただろうか？

横尾に着く手前で雨がふりだした。ただ、空には青空も見えている。こんな時は、雲の高さが高い積乱雲などが中心のため、雷には要注意だ。予定どおり登るが、雷の音には、耳を凝らすことにする。

横尾からの登りは、徳沢からの登りに比べて、非常に急で、途中で傾斜が緩くなるところがほとんどない。子どもたちががんばれるか、様子を見ながら登る。

槍見台に着いたが、槍は全く見えない。そして、この頃から本降りになってきた。Sちゃんは、暑いというので、熱中症を心配し、雨具のジャケットに腕を通さず、頭からザックと一緒にかける方法で登る。



雨で登山道が沢のようになった急斜面を登る

本降りになってからしばらくすると、登山道は沢のように濁った水が流れるようになる。雨

の様子や子どもたちの様子、大人の様子などを見ながら、状況によっては、引き返すことも考えておいた。

標高2000m付近からMさんが遅れはじめたものの、子どもたちは元気に登っているようだ。もう少し登ったら、下るよりも登って蝶ヶ岳ヒュッテに行った方が早い状況になるため、様子を見つつも、登っていく。

かなり激しく降った雨は小降りになり、2400m位では止み、霧に変わった。Sちゃんは寒くなったということなので、上半身に着ているものを全て脱いで、朝、暑くて脱いだ長袖の上着を直接肌の上に着て、その上に今脱いだ半袖のシャツを着てもらおう。そしたら、暖かくなったということで、ホッとする。ただ、少し頭が痛いようで、小屋に着いたら体温計で体温を測ってほしいという。

後のグループがなかなか登ってこなかったが、重いザックを背負っていたK君の荷物を分担していたようだ。

少し登ると、森林限界に到着し、すぐ先に稜線を歩く人たちが見えた。みんなにすぐそこが稜線であることを伝える。



稜線に出たらライチョウが現れた

稜線に到着し、霧の中を歩いていると、ライチョウが2羽現れた。子どもたちにライチョウを見せてあげることができて、本当に良かった。そして、槍ヶ岳の神様と穂高岳の神様に、「子どもたちにご褒美を」と心の中で願った。

稜線を歩いていると、すぐに蝶ヶ岳ヒュッテが見えるはずだが、今日は全く見えない。しか

し、大きな株のチシマギキョウの写真を撮ったりしながら、歩いていくと、人の声が聞こえはじめ、目の前にぼんやりと山小屋の屋根が見えた。いろんな心配はあったが、全員無事に蝶ヶ岳ヒュッテに到着した。

受付を済ませ、私たちは11人で一部屋を使わせていただくことができた。TさんとYさんの取り計らいで、Sちゃんの診察をしていただき、体温も血中の酸素濃度も問題ないことが確認できた。ただ、Sちゃんはまだ頭が痛いとのことで、自分から申し出て再度診察を受け、酸素吸入をしていただいたら、かなり楽になったようだ。

夕食後、外に出てみると、雲の切れ間から穂高連峰が見えた。まだ食事中だったK君やSちゃんに声をかけると、K君が出てきて、写真を撮っていた。

☆8月1日

夜中に何度か外に出て空を見たが、星は見え、K君の課題の役に立てないと思っていた。しかし、3時半ころNさん、K君と一緒に起きて、外に出てみると、わずかだが、星が見えた。カシオペア、オリオン、牡牛座、スバルなどが分かる。南東の上空に光るオレンジ色の星は木星だと思うが、どうだっただろうか？ 槍穂高連峰もよく見えていた。



御来光

4時半ころ再度外に出て、日の出を待つ。雲海の上に槍穂高連峰が浮かんでいる。遠くには富士山やハケ岳、乗鞍岳、御嶽も見える。隣の

常念岳から大天井岳などもよく見える。日が昇る東の方は、大雲海が広がっている。昨日、願いをかけた槍穂高の神様が、子どもたちにご褒美をくれたのだろうか。神様に感謝します。

東の空に点のように光った御来光は、あっという間に姿を現し、周囲は太陽の光で満たされた。それと同時に、雲たちも活動を始め、次第に上に上がってきて、槍穂高を隠し始めた。日が昇ったあと、5時にはヒュッテの食堂に並び、1番で朝食にありつけた。



朝日に染まる槍ヶ岳

朝食後、出発準備をして外に出ると、2重のブロッケンが見られた。30年以上山に通っている私も、2重のブロッケンにははじめて出会った。子どもたちも、めずらしい現象を見られて、貴重な体験になったのではないだろうか。



2重のブロッケンと穂高連峰

ブロッケンを楽しみながら、蝶ヶ岳の山頂を目指す。後をふり返ると、蝶ヶ岳ヒュッテと常念岳、それに表銀座の山などが雲と戯れているように見える。

山頂で集合写真を撮り、下山にかかる。ハイマツ帯からハクサンイチゲやチングルマなど

が咲くお花畑へと下っていく。クロユリも咲いていた。



蝶ヶ岳山頂にて

K君とSちゃんは、Yさん、Tさんと一緒に下ってくる。すっかり、Yさん、Tさんに懐き、安心して歩いているようだ。



長堀尾根のお花畑付近を下る

妖精の池には、ハクサンチドリやテガタチドリなどが咲いていたが、以前よりお花畑の規模が小さくなったように感じたが、私の気のせいだろうか？

妖精の池から緩やかに下り、一登りで長堀山に到着する。妖精の池でも多かった虫は、ここでも多かった。

登山道には、卵のような形をしたキノコがあったが、少し歩いたところにベニテングタケが生えていたので、そのキノコもベニテングタケだったようだ。キノコなどを楽しみながら下り、標高約2000mの平坦地で休憩し、ここからは一気に徳沢に下ることにする。

しばらく下り、後が遅れているようなので、待つことにする。なかなか下りてこないで、「おい」と何度か呼びかけ、Fさんが呼んだ

時に、Tさんの返事があった。

非常に慎重に下っているなと思ったが、上の方でK君が岩で足を滑らせ、数メートル転がってしまったため、少し休み、様子を見てから下ってきたとのことだった。K君は、頭にたんこぶを作り、腰が痛いとのことだったが、意識はしっかりしていて、気持ち悪いようなこともないという。ただ、頭に軽く触っても「痛い」と言うので、しっかりと様子を見ながら歩くことにする。

K君とSちゃんには、前のほうに来てもらって、様子を見ながらゆっくり下ることにする。K君は、ゆっくりだが自力で下りている。下の方には、梓川の河原がはっきり見えるようになり、徳沢園の赤い屋根も見えてきた。滑らないように最後まで気をつけて下り、ようやく徳沢に飛び出した。

私も、子どものころは何度も頭にたんこぶを作ったので問題ないと思ったが、やはり頭が痛いとのことなので、徳沢にある日本大学医学部の診療所に行って、診断していただくことにした。診断結果は、問題なしだが、3日間くらいは、頭の内部で出血が起きないか注意する必要があるので、何か様子がおかしかったら、脳神経外科を受診するようということだった。先生が、転がった時は怖かったかと質問すると、K君はおもしろかったと答えるところが、大物になりそうだなと感じた。Sちゃんも一緒に先生の話聞き、泊まった宿の名前など、K君が答えられないことをしっかりと代弁していた。

徳沢から明神を経て、上高地まで歩くが、予定より時間がかかり、帰りが遅くなりそうなので、上高地でのお風呂はあきらめ、できるだけ早いバスで帰ることにする。それでも、松本発のあずさは、16時35分発となってしまった。

帰りが遅くなり、子どもたちは相当疲れたと思うが、激しい雨や厳しい体験、さらにいろいろな高山植物やライチョウに出会ったり、2重のブロッケンを見たり、御来光と大展望を見られ

て、K君もSちゃんも大きく成長できたのではないだろうか？



子どもたちのがんばりと共に、それを支えて

いただいたスタッフのみなさまに、心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

コースタイム

7/30 上高地 (13:25) … 明神 (15:15-15:30) … 徳沢 (16:30)
7/31 徳沢 (7:10) … 横尾 (8:25-8:50) … 稜線 (13:05) … 蝶ヶ岳ヒュッテ (13:50)
8/1 蝶ヶ岳ヒュッテ (6:20) … 蝶ヶ岳 (6:30-6:45) … 長堀山 (7:55-8:05) … 2000m (10:05-10:15) … 徳沢 (12:00-12:40) … 上高地 (14:30)

自然と親しむ子ども山登り教室感想文（第2回御岳山）

今回の山登りは、御岳山でしたが、当日は頂上付近で雨が強くなり、日の出山に変更しました。

最初は、晴れていたのもとても暑かったです。そのため、近くにあった川で、持ってきていた汗ふきタオルを冷たい小川の中に入れ、タオルをぬらして首にかけると「ヒヤッ」として気持ちよかったです。途中には、「マムシグサ」や「ヤマツツジ」、そして頂上付近では、ヤマツツジのトンネルがあり、とてもきれいでした。

その後、やっとのことで日の出山の頂上についたら雨がふり出しました。雨が強くなってきて、予定には無かったロープウェイの駅に着くとお土産屋があったので、そこでバッチと乗り場限定のまんじゅうを買って帰りました。

今回、妹も荷物を持ってもらったりすることはなく、頂上まで登れ、雨はふっていましたが、良い山登りでした。

K. I 君

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

今回のみだけ山は運動会の次の日で、少しいへんでした。

山を登っているとき、白くて細長いスズランのような「ホウチャクソウ」や白くて小さい花がたくさん咲いている「マルバウツギ」、こいピンク色で花がまとまっているシャクナゲなどを見つけました。ツツジのトンネルはとてもきれいでした。

うぐいすが鳴いていて、鳴き声がよく聞こえていたので、近くの木で鳴いていると思いました。でも見ることはできませんでした。

そして、頂上に着いた時は足がつかれていました。下りはケーブルカーに乗って行って下りました。足がつかれたので楽でした。

帰りにおみやげのバッジと太福とまんじゅうを買いました。お家に帰ってお父さんやお母さんと食べておいしかったです。

今回は元気に登れてよかったです。7月のお泊まりは、しっかりと登れるようにがんばります。

S. I さん

自然と親しむ子ども山登り教室感想文（第3回扇山）

「ふーつかれた」これは、扇山登山が始まって、まだ20分たったころだった。スタートから地面がコンクリートだったので、少し疲れていた。そして、40分たったころからやっと、登山口に入りました。赤い野いちごがあって、食べてみると、甘くもなく、びみょうな味でした。それから10分ぐらい歩くと、黄色い野いちごを発見！ だまされたと思い、食べてみると、今度は甘かったです。妹は、「うまい！」といって、手の平いっぱいにつんで、昼の弁当箱にしまいました。

それからしばらく、草木や花を見たりして歩くと、わき水がある休けい所でサワガニを見つけました。

そこから45分ほど登ると、ようやく頂上に着きました。頂上で楽しみにしていた弁当タイム。と思ったら、なぜか、コバエがたくさんいて、ゆっくり弁当を食べられませんでした。そして、山のふもとには、温泉があると聞き、楽しみにしながら、いつもより速く下りました。ゴール直前の滝を実ながら、楽しみにしていた温泉に着くと、旅館の方からふっくらのホットケーキを頂き、妹と2人で食べ、とってもおいしかったです。

今回の山登りは、久びさに野いちごを食べられて、そして温泉にも入ることができて、大満足でした。

K. I 君

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

今回の山は、扇山で 1,000m をこえる山でした。

登り始めて、赤い野イチゴを見つけ、食べてみました。味はあまりしませんでした。次には、オレンジ色の野イチゴを見つけました。赤い野イチゴよりおいしかったです。色々な場所に生えていて、お弁当箱にも入れました。

頂上に着いて、昼食にすると、ハチミたいな小バエがいて、ゆっくり食べられませんでした。下りのと中に「君こいし温泉」がありました。そこで、ぶあついホットケーキをもらって食べたらおいしかったです。温泉にも入り気持ち良く、少しつかれがとれました。

帰りは、タクシーで駅まで乗って、楽でした。

次回は、いよいよ山小屋での泊まりがあります。少し不安ですが、がんばりたいと思います。

S. I さん

自然と親しむ子ども山登り教室感想文（第4回雲取山）

今回の山登りは、1泊2日での「雲取山」でした。

夏になったため暑くなり、虫が多くて大変でした。

1日目は、林道が多く、道がコンクリートだったので、とてもつかれました。2日目が本番で上り、下りのハードな1日でした。山小屋から朝4：30に出発して、まだ太陽の日が出ていない暗いところに登りはじめました。最初から少し急な坂でつらかったです。ようやく日の出るところになったころは、頂上前のとても急な坂につき、虫も増えはじめました。そして、坂を登りはじめると小バエが耳の周りをブンブンとびまわり、おまけに耳の中に入って

来てとてもうっとうしく歩きづらかったです。そんな中、約1時間登りようやく頂上につきました。そこで妹と記念写真！でしたが、妹の口の中に虫が入り、大変なことになりました。でもアルプのメンバーのおかげでなんとかになりました。そんなこともあり下山していると通り道に「セツ石山」があったので、登りました。でもその坂は、とても急でつかれました。でも登り切った後は、やはり虫が多かったので、すぐに下りました。しばらく下り、林道が間もないころに「しか」がいておどろきました。

その後、テンションが上がり、すぐに下り林道にたどりつきました。今回は1泊2日で大変でしたが、色々なイベントがあり良かったです。次回は、最後の蝶ヶ岳なのでがんばります。

K. I 君

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

今回は東京で一番高い山「雲取山」でのお泊まりでした。

1日目は山小屋まで林道でした。山小屋の最初のそうそうは、虫だらけで、きたないと思いましたが、そのそうそうより、虫も少なく部屋がきれいでした。食どうもありました。

2日目、3時半ごろ起きて出発。山道に入り、岩や石がたくさんありました。坂も急で、時々足がすべったりもしましたが、がんばって登りました。

頂上の「雲取山」から下り、また1000m位のセツ石山にも登りました。

その後には、なかなか見られない野生のシカもいて「わーすごい」と感動しました。

次回の山は2泊だけど、同じようにがんばりたいです。

S. I さん

自然と親しむ子ども山登り教室感想文（第5回蝶ヶ岳）

今回の蝶ヶ岳でぼくは、三つの大きな経験をしました。

一つ目は、雷鳥を見ることができたことです。写真より、とても美しく感動しました。

二つ目は、ブロッケン現象です。これは、「前がきり、後は晴れ」という天候の時にしかできない、めずらしい現象を見ることができ、とても感動しました。

三つ目は、ぼくにとって大きなけがをしたことです。これは、3日目の下りの時のことで、足をすべらせ、ささやぶの中にザックの重みで背中から入り、そこから2回転半ほどして下の山道まで落ち、大きなたんこぶを作ってしまった。そのけがは、1週間ほど続き、とてもいたかったです。でも、今回は色々な体験や経験をしてとてもよかったです。K. I 君

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

今回の蝶ヶ岳は、いろんな感動がありました。

1つ目は、初めて雲の上を見たことです。それを見たときは「すごい、ここまで高い所まで来れた。」と思いました。

2つ目は、雷鳥がいたことです。雷鳥は、地味でタカのような大きい鳥だと思っていましたが、ハトみたいな鳥でした。

3つ目は、ブロッケンげんしょうです。わたしは、5回しか上っていません。が、この現しゅうを見られたのは、めずらしいと聞いて、本当に運が良いと思いました。

つらい時もあったけど、スタッフさん達のおかげで最後まで登ることができました。

S. I さん

親御さんから

「しーちゃんが疲れた〜とか、まだ着かないの・・・ってずっとグズグズ言って荷物も持ってもらったんだよ。」Sにとって初登山となった陣馬山から帰って来た時のKからの報告でした。「やっぱりSには無理だったのか・・・。」あと4回ある山登り教室で、山小屋にも泊まらなくてはいけないのに、スタッフの方々に迷惑ばかりかけるのなら止めた方が良いのではないかと悩みました。でも、本人は行きたくないと嫌がってはいなかったので「今度は自分で荷物を持って、うるさく言わずに登ろうね。」と約束をし、その後も参加させて頂きました。回を重ねるごとに慣れてきたのか、うるさく言わずに登れるようになったようで安心しました。でも、その影にはスタッフをはじめ、仲間の方々が、体調管理や虫対策等、色々とサポートして下さったことが報告文に書かれており感謝の気持ちでいっぱいです。

そんな支えの中、2人は幻のブロッケンを見たり、雷鳥や猿、鹿に出会ったり、2年に一度しか咲かない花や光合成をしない花などを見て、「普通の小学生は見たことがないよね〜。」と特にSは何日たっても自慢げに話しています。

山登り教室に参加して、Kはもちろん、Sはひと回りもふた回りも成長でき、貴重な体験をさせて頂きました。

最後になりましたが、同行して下さいました全てのスタッフ、仲間の方々、大変お世話になりました。ありがとうございました。この場を借りてお礼いたします。 E. Iさん

山 行 報 告

★日本平(6月5日)

参加者 会員(障害者2名、健常者7名)
会員外(障害者1名)

今回は、静岡駅まで各駅停車で行く、長い電車の旅だ。往復6時間半程かかる。

草薙駅で全員集合し、自己紹介をする。今回は、聴覚障害を持つKさんが初参加だ。全員で10人という少人数で、舗装道路を歩きはじめる。

電車賃を浮かせるため、静鉄の電車には乗らず、一駅分歩く。県立美術館前駅から左に折れ、まずは平澤寺を目指して歩く。しっかりした地

図がないため、インターネットで探した地図とMapionの地図を片手に、地図と道路を見比べながら歩く。

途中にあった射撃場の音を聞くと、Nさんは「ウッ」と言って、撃たれてしまったような気持ちになっているようだ。平澤寺で休憩し、ここから山道となっていく。日本平ゴルフ場の脇を回り込むように登山道がついている。何度か、アップダウンを繰り返す。今日は、さすがに暑く、歩いている時は、半袖がちょうど良い。しかし、蚊などが多く、何ヶ所か刺されてしまった。

大きくえぐれた溝のようなところを抜け、さらに登っていくと、日本平山頂の一画に着く。そこは、車が行き来する車道だった。日本平ホ

テルの脇を抜け、さらに歩くと、土産物店などが立ち並び大きな駐車場に出た。

ここから、さらに登っていくと、「赤い靴」の石碑がある。童謡のモデルとなった女の子は、日本平の麓の不二見村がふるさとだったそう



だ。日本平の山頂で昼食タイムとする。ホオジロが近くの木の上で元気にさえずっている。ただ、曇り空のため、富士山は全く見えないのが残念だ。

そろそろ、出発しようかという時、駿府ウェイと書かれた帽子をかぶった観光ボランティアの方が、久能山の東照宮を案内してくださるので、お願いすることにした。

ロープウェイと東照宮の割引券もいただいた。久能山東照宮は、徳川家康公の意志によって、土葬された場所だ。家康公は、平和を何よりも大切にしたいというエピソードをいろいろ教えていただいた。とにかく、最も貧しい人たちの生活レベルが引き上げられて安定しない限り、平和にはならないということで、平和に対して力を尽くされたそうだ。

東照宮の各所にある、制作者や家康公のさまざまな思いもお聞きし、とても参考になった。今回は、歴史にまつわるいろんなことを学ぶこ

とができて、山よりも充実した一時となりました。ボランティアをしてくださった方に、心から御礼を申し上げます。



東照宮からは、長い階段を下ります。何でも、一番上の神廟から下までは、1199 段の階段があるとのこと。眼下に広がる駿河湾を見ながら下っていくと、イチゴを売っている店があった。イチゴにつられて、全員がイチゴジュースをいただく。

とてもおいしく満足したが、そのせいもあって、バス停に着く直前に予定よりも1本早いバスが行ってしまった。次のバスまで1時間もあるので、コンビニで飲み物を買って、海を見ながらくつろぎの時間とする。

バスに乗ると、小雨が降りだした。歩いている間、雨にふられなかったのが、ラッキーだったようだ。

コースタイム

草薙駅(10:20)…県立美術館前駅(10:30)…
平澤寺(11:20-11:30)…有度山
(12:40-13:25)…ロープウェイ駅
(13:30-13:40)―(ロープウェイ)―久能山東照宮
(13:50-14:40)…久能山下バス停
(15:25)

★高尾山(6月18日)

参加者 会員(障害者1名、健常者9名)

会員外(健常者1名)

今回は、夜の高尾山でムササビを見つけようという企画。新宿駅を出たのが13時40分で、帰ってきたのが23時頃。これまでにない企画なので、ぜひ実施したかったが、午後から夜にかけて雨の予報。当日の朝まで最終判断を迷ったが、あとは行ってみて判断することとし、決行する。

小仏でバスに乗ろうとしている登山者は数人いたが、これから山に向かう人たちは一人もいなかった。今回の登山では、高尾山頂と薬王院で、10数人のグループにあったが、それ以外は、ほんの数人しか会わず、これほど静かな高尾山は初めて経験した。

ずっと曇り空だったが、高尾駅の直前で降り始めた雨は、ずっと降り続くようになった。それでも、予定どおり出発する。

今回は、獨協大学4年生のTさんがお試し参加だ。最近、若い人の参加が少しずつ増えてきて、うれしい。Tさんは、「ボラ市民ウェブ（東京ボランティア）」を見て、参加申込をしてくれたとのこと。情報を掲載してくださっている、会員のTKさんに感謝です。

降り続く雨の中を登って、まずは小仏峠に到着。ここから稜線を歩いて城山に向かう。山道はぐちゃぐちゃで、ところどころ田んぼのようにになっている。できるだけ、端の方を歩いて通過する。



静かな城山山頂にて

夕方になると野鳥たちがさえずり始めるが、今回も、キビタキやツツドリ、ホトトギスなどの夏鳥の歌声が聞こえたものの、オオルリの声

だけは聞こえなかった。オオルリはどうしてしまったのか、本当に心配だ。

城山では、もう茶店が閉まっている時間だったので、屋根の下のテーブルと椅子を使わせてもらう。ここの茶店では、販売している商品を手書きで書いているが、ポカリスエットを「ホカリ」と書いていたり、日本人が書いたのではないのではないかと、SさんやTさんが話していた。

城山から少し下って、さらに歩くと、一丁平に到着。展望のよい場所だが、あいにくの天気でも何も見えない。そのまま通過し、高尾山への長い階段が始まる。傾斜は緩いが、階段は疲れる。さらに最後の急な階段を登ると、高尾山の山頂に到着する。山頂のすぐ下の屋根のあるベンチで夕食タイムとする。この頃には、ほぼ雨が止んでいた。

山頂の先の東屋には、若者たちがスーパーバッグをたくさん並べて、夕食の準備でもしていたのだろうか？ 我々は、山頂直下のトイレによって、そのまま薬王院を目指した。

薬王院は、この時間は中を通過できないので、金網の脇を通過して本堂に行く。本堂に着くと、お寺の方がいたので、ムササビ観察をさせていただきますと、了解を取った。今回、もう一つの楽しみだったセッコクがどこに咲いているかTHさんが聞いていたが、良く分からなかったようだ。暗いので、どちらにしてももう見えなかったのではないだろうか？ セッコクは次回の楽しみに取っておきましょう。

薬王院には、すでに東京農大厚木キャンパスの農学部の学生さんたちがムササビ観察を始めていた。いろいろ教えてもらい、大本坊の屋根の下を学生さんたちと一緒に観察することにする。しかし、観察していたら、ザックなどを置いた境内広場で2匹ほど滑空したという情報が入る。うーん、残念。それならそちらに行こうかと思うが、そちらに行くとこちらが出るというパターンになりやすいので、決めた場

所でじっくりと待つことにする。後ろ側の木々の中からムササビが鳴く声も聞こえてきて、こちらの穴でも飛び立つのではと期待が高まる。

大本坊の一番手前にある穴から出るのを待っていたが、奥の方で、姿を現したという情報が入り、そちらに移動する。屋根の穴から2匹がこちらを見ていた。しかし、それを観察していたら、今まで見ていた一番手前の穴から1匹が滑空したという情報が入る。そこにいたTHさんは、頭のすぐ上を飛んでいったと言っていた。うーん、やはりマーフィーの法則かと思ったが、とにかく今見ているムササビが飛んでくれるのをじっくりと待つことにする。しかし、大勢に見られているので、緊張したのか、中に姿を隠してしまった。だが、学生さんたちは、中央の穴から出るはずだと言うので、中央の穴をターゲットにして待つことに変更する。ムササビが、屋根裏をごそごそ歩く音も聞こえた。



中央の白っぽい部分がムササビです

そして、中央の穴から顔を出すだけでなく、一本の棒に止まっているのが確認された。もう滑空は時間の問題のようだ。私はビデオカメラ

を構えて待つ。

その時、バッと白い座布団が広がった。歓声が上がり、みんな大満足。白い座布団は、1秒くらいしか見られなかったが、一生の思い出になりそうだ。

薬王院で50分くらい時間を費やしたので、ここからはペースをあげて下ることにする。ライトを付けてコンクリートの道を歩いていたら、白い動物が道をよぎって、山の斜面をはい上がっていった。Mさんが、ウサギだと言ったが、たぶん間違いないのではないだろうか？

道路の右手には、高尾や東京方面の夜景が広がり、下の山腹には、オレンジ色の光を受けた層雲が鮮やかに見え、夜でなければ見られない光景を楽しんだ。

初参加のTさんも、夜の山もよいですねと言っていた。ロープウェイの駅を過ぎると、もう真っ暗になった。ライトの明かりだけを頼りに、コンクリートの道を下っていく。ケーブルの駅を通り過ぎ、高尾山口駅に無事に到着した。

お目当てのムササビを見ることができ、夜景やウサギまで見ることができ、そして静かな高尾山を満喫することができ、雨二モマケズに来てよかったですね。

コースタイム

小仏(15:05)…小仏峠(16:05-16:10)…城山(16:40-17:00)…高尾山(18:05-18:30)…薬王院(19:00-19:55)…高尾山口駅(20:50)

★甘利山(6月26日)

参加者 会員(障害者1名、健常者6名)

荳崎駅からジャンボタクシーで広河原に向かう。荳崎の町から、雲の上に顔を出した富士山が見える。山の方は曇っているが、麓は薄日

が差すくらいの天気回復してきた。

駐車場の周辺のレンゲツツジは満開だ。アヤメもきれいに咲いていた。スズランは、もう花が終わっていたようだ。

この付近は雲の中に入っているため、視界がないが、満開のレンゲツツジを楽しみに登り始める。緑の中のシラカバが美しい。足下には、

オオヤマフスマやシロバナノヘビイチゴ、ツマトリソウ、ウマノアシガタなどが咲いている。緩やかな登山道を登っていくと、樹林が切れ始めた。そして、一面のレンゲツツジが広がる。何というすばらしい光景だろう。これほどのレンゲツツジの大群落に出会ったのは初めてだ。ふり返ると、富士山が雲海の上から頭を出している。



レンゲツツジの群落

レンゲツツジに囲まれた木道の上を歩いて、甘利山山頂に向かう。霧も晴れてますますの天気になってきた。これから登る奥甘利山もよく見える。多くの人たちが昼食を取っているが、私たちは集合写真を撮って、奥甘利山で昼食を取る予定で、出発する。



甘利山山頂にて

ここから先は、レンゲツツジの群落は終わるが、見事に花を付けたツツジが迎えてくれる。ちょっと派手に思えるが、ヤマツツジなのかも知れない。実際には、何という種なのでしょう？

奥甘利山には、千頭星山まで続く登山道から、少し分岐して行くことになる。この山頂直下に

も見事なヤマツツジ(?)が咲いていた。奥甘利山の山頂は、展望がなく、カラマツ林に囲まれた静かな山頂だった。ここで昼食を取り、登山道に戻って、千頭星山を目指す。奥甘利山を下りきった付近で、登山者がシロバナノヘビイチゴやマイヅルソウを摘んでいるのを発見した。「花を摘んでよいのですか？ 高山植物ですよ」と注意したが、何という人たちなのだろうか？

コル付近のカラマツには、鹿除けが巻かれている。非常に多くのカラマツに巻かれているので、作業の大変さが、感じられた。この付近で、Yさんが、膝の調子が心配なので、引き返すという。16時に迎えに来るタクシーに遅れないように、再会しましょうと言って分かれた。

ほとんど展望のない樹林帯を登っていく。サルオガセが、かなり多くの木に付いている。今は元気でも、いつかは生気を吸い取られて、枯れてしまうのだろうか？



千頭星山への登りで見えた地藏岳

大西峰手前の分岐によりやく到着する。右の道は、青木鉱泉へと繋がっているが、こちらは千頭星山を目指す。ここからは、急になだらかになり、快適な笹原の道が続く。レンゲツツジの大群落とすばらしい展望を見て、東京方面から日帰りで来られる山としては、第1級の山なのではないだろうかと思った。

笹原を歩いていると、富士山がよく見えるようになり、右手には、鳳凰三山の薬師岳とすぐ右の観音岳、そしてオベリスクがよく目立つ地藏岳がよく見えた。

最後の短い登りをがんばると、千頭星山の山頂に到着した。展望はないが、ここは山梨百名山に選ばれている。山頂そのものよりは、稜線の展望の良さが、すばらしい山のような。何でも、山名の「千頭」は、動物が豊富で、千頭もいるというところから取ったらしい。なお、甘利山も山梨百名山だ。

千頭星山の山頂では、以前、山仲間アルプの会員だったHさんにお会いした。今も元気に山を登られているようで、よかった。4人くらいのパーティーでできたようだった。

私たちは、14時を引き返す限度の時間としていたので、ちょうど14時に下山を開始する。山頂を過ぎ、草原に出ると、ハケ岳が見えた。赤岳は見えないが、一番左に、特徴のある蓼科山が見え、手前には編笠山と権現岳が見えた。鳳凰三山は、登りの時よりも、きれいに見えていた。

下りは順調だ。大西峰の分岐からも順調に下っている。奥甘利山への分岐も過ぎ、甘利山に到着する。タクシーの時間に、まだ余裕があるので、写真タイムとする。富士山がだんだんきれいに見えるようになってきた。また、南アルプス南部の策ヶ岳や上河内岳もよく見えている。登ってきた千頭星山も間近に見えるし、隣の櫛形山もよく見えている。すばらしい天気にな

ってきた。



タクシーの時間に合わせて下山にかかる。あっという間に駐車場に着き、すでに待っていたタクシーに乗り込んだ。

タクシーの運転手さんに聞いたら、甲府盆地は、蒸し暑かったらしい。山の上は、休憩すると肌寒いくらいの快適な気温だった。梅雨のわずかな晴れ間が私たちを迎えてくれて、今日は、すばらしい一日となった。山の神様に、ただただ感謝です。

コースタイム

広河原(10:45)…甘利山(11:10-11:20)…奥甘利山(11:50-12:20)…大西峰分岐(13:10)…千頭星山(13:40-14:00)…甘利山(15:20-15:40)…広河原(15:50)

★北岳(7月2日～3日)

参加者 会員(障害者6名、健常者11名)

☆7月2日

昨晚、甲府駅前のビジネスホテルに泊まり、甲府駅から広河原行きのバスに乗る。バス会社は、人数が多かったため、臨時便を出してくれたようだ。

上空を見ると、どんよりと曇っている。今日

の天気予報は、曇り後雨。何とか、雨がふったり雷が鳴る前に小屋に着きたいものだが、難しそうかなと思ってしまう。

ところが夜叉神峠に着く手前から、雲が薄くなり、薄日が差すようになる。トンネルが通れるようになる5時30分まで、バスは止まって、休憩となる。ひんやりして、暑い下界とは雲泥の差があることを実感する。

トンネルを抜けると、青空が広がっている。昭和天皇が昭和32年に白峰三山を見に来たという場所から北岳や間ノ岳がよく見える。思

いがけない快晴に、心が弾む。

広河原でバスを降り、これから登る北岳をしっかりと見た後、Iさんが昨晚泊まった広河原山荘まで行って、自己紹介をする。水筒を満たし、ここから本格的な登りとなる。



広河原から見た北岳

大樺沢は、雪解けの水を集めて濁流となって流れている。しかし、水はどこまでも澄んできれいだ。カワガラスが、流木の上で、しばらくパフォーマンスを見せてくれる。

梢では、オオルリの声が聞こえた。何と、私は今年はじめて聞く声だった。

登山道は、私が持ってきた昭文社の2000年版地図だと、二俣まではほとんど左岸を歩き、少しの区間だけ右岸を歩くことになっているが、最新版だとかなり長い区間、右岸を歩くことになっている。

野呂川を挟んだ対岸の早川尾根には、滝雲がかかっている。空は真っ青で気持ちがいいが、北岳の山頂には、雲が時折かかるようになってきた。

ミヤマカラマツやミヤマハナシノブ、キバナノコマノツメ、ミヤマキンバイなどが咲いているが、名前の分からない白い花もたくさん咲いていた。二俣が近づいてくると、シコタンソウやサンカヨウも咲き始めてきた。

二俣で軽アイゼンを付ける。雪渓は、ここから八本歯の科尔に登る尾根まで続いている。順調に登り始めたが、Mさんが遅れてきた。どうも雪渓が苦手なようなため、雪渓から夏道に上がって、登ることにする。しかし、夏道は、雪

渓を横切らないと上に行けないため、再び雪渓に入る。



二俣から八本歯の科尔への雪渓を登る

Mさんが雪渓の上で何度も滑っているため、キックステップの要領を教えるが、なかなか飲み込めないようだ。それでも、滑り落ちないように、すぐ後を寄り添いながら登っていくと、八本歯の科尔に登る急な尾根にたどり着いた。

軽アイゼンを外し、ハシゴが連続する厳しい登りをがんばる。コイワカガミがほんの一時、苦しさを忘れさせてくれる。右手には、北岳バットレスが、時折姿を見せてくれる。

少し前にバットレスの4尾根を登ったSさんは、すばらしい技術を持っている方だと思う。

八本歯の科尔で、遅い昼食タイムとする。完全に霧に包まれているが、時折霧が晴れて八本歯の頭が見える。科尔の南側は、シナノキンバイとハクサンイチゲのお花畑だ。クロユリのつぼみがたくさんあり、チシマアマナも咲いていた。



北岳にしか咲かないギタダケソウ

科尔からもハシゴが続く。ハシゴが終わると、

大きな岩がゴロゴロするところに出る。そこを超えていくと、北岳山荘ヘトラバースするコースとの分岐になる。分岐にザックなどを置いて、キタダケソウを見に行く。この季節に北岳に来たのは、キタダケソウを見ることが大きな目的のため、出会えた時の喜びは、ひととき大きい。ハクサンイチゲとキタダケソウのお花畑を楽しみ、分岐に戻る。

ここから広い斜面を登って稜線に到着する。北岳の山頂は、明日登るので、少し休憩をした後、北岳山荘方面に向かう。ここからのコースは、北西側が切れていて、要注意の場所だ。鎖の付いた場所やハシゴを下ったりして、ようやく危険箇所を通過する。



稜線は危険な岩場が続く

危険箇所の途中にもすばらしいお花畑があったが、その後も、ハクサンイチゲを中心としたお花畑が広がっていて、歓声が上がる。チョウノスケソウも、咲き始めのものがいくつか見られた。

北岳山荘では、間ノ岳という部屋を割り当てられた。屋根裏のような狭いところに、男性5人が寝た。みんな寝不足で疲れていたため、夕食後すぐの19時前には眠りについた。

☆7月3日

朝、外に出てみると霧で何も見えなかった。霧雨のような雨もふっていた。

夕食後、30分遅れで小屋を出発する。霧の日は、着ているものがびしょりになるため、上下の雨具を着て歩きはじめる。小屋前の温度

計は9℃を指していた。雨具は防寒対策にもなる。

歩きはじめると、時折日が差し込むようになってきた。もしかして、霧が晴れるのではないかと期待が広がる。厳しいところを登っていると、ブロッケン現象が見られた。初めて見た人も多かったのも、とてもラッキーだった。

八本歯への分岐で小休止し、さらに山頂を目指して登っていく。山頂直下では、キタダケソウを発見。こちらは、まだ花が開いて間もない旬の花だったようだ。



北岳山頂にて

霧の中で何も見えないが、全員が山頂に到着した。かわいいお地蔵さんが30年前に来た時と同じように、迎えてくれる。集合写真を撮った後は、それぞれ記念写真を撮り合う。

山頂を後に、肩の小屋方面に向けて下る。こちらでも、何ヶ所か岩場を通過する。山頂では暖かくて、雨具を脱いだが、風が強くなり寒いので、雨具の上着だけを着ることにする。

こちらにはイワウメやキバナシャクナゲが多い。ミヤマタネツケバナも咲いている。

肩の小屋を過ぎ、小太郎尾根の分岐に来ると、雲の切れ間ができて、小太郎山が見えた。甲斐駒や仙丈岳は、全く見えず、鳳凰三山がもう少しで見えそうだったが、見えるまで待つ時間はないので、右俣コースを下っていく。

ショウジョウバカマの花が咲き、シナノキンバイが、一面を黄色に染める。もう少しすると、ミヤマキンポウゲも加わって、さらに黄色が増えるのだが、シナノキンバイだけでも、すばら

しかった。

たくさん咲いていた白い花は、サンリンソウだと思っていたが、どうなのだろうか？

ハクサンチドリ、ミヤマキンポウゲ、タカネザクラ、エンレイソウなどが咲き、さらに下にはヒメイチゲやツマトリソウも咲いていた。



雲が切れ始めて、鳳凰三山は、すっかりと姿を現した。北岳はバットレスの中間部から上は雲に被われて全く見えない。しかし、昨日登った八本歯の科尔や池山吊り尾根がよく見えるようになってきた。

長い下りをはげまら、ようやく二俣に到着する。ここでちょっと遅い昼食タイムとする。沢

に下りると、雪溪の末端に穴が空き、そこから流れ出る沢水は、1分くらい立っているのもつらくなるくらい寒かった。

あとは、右岸側に一部分、厳しい箇所があるので、そこを慎重に通過して、どんどん下っていく。そして、ようやく広河原山荘の屋根が見えて、長い下りも終わった。

吊り橋を渡って、大樺沢を見上げると、山頂部分だけを雲に隠した北岳が見えた。全員、無事に下り終えて、ホッと一安心。北岳よ、また来る日まで！

コースタイム

7/2 広河原山荘 (6:40) … 白根御池分岐 (7:05) … 二俣 (9:30-9:50) … 八本歯の科尔 (13:55-14:20) … トラバースルート分岐 (15:05-15:35) … 稜線分岐 (16:00-16:10) … 北岳山荘 (17:10)

7/3 北岳山荘 (6:30) … 八本歯分岐 (7:40-7:50) … 北岳山頂 (8:10-8:40) … 肩の小屋 (9:30-9:40) … 二俣 (12:25-12:55) … 広河原 (15:35)

★不帰嶮（リーダー養成）（7月16日～18日）

参加者 会員(障害者1名、健常者4名)
会員外(健常者1名)

☆7月16日

夜行バスのさわやか信州号は定刻より少し早く八方に着いた。急ぎよ参加となった会員外のIさんと合流する。Iさんは、4年前の赤木沢に参加した超元気なおばちゃまだ。

ゴンドラとリフトを乗り継いで第一ケルンまで上がる。途中の鎌池は、ニッコウキスゲが群落を作り、その向こうに白馬三山が見えるすばらしいところだった。

リフト終点の第一ケルンから順調に登って

いく。天気はますますだが、雲が多いようだ。しかし、次々に現れる高山植物が楽しませてくれる。テガタチドリ、タカネイブキボウフウ、ハッポウウスユキソウ等々。さらには、タカネバラ、クルマユリ、ハクサンチドリなども咲いていた。シラネアオイも群落を作って、たくさん咲いている。クリンソウかと思ったサクラソウの仲間は、オオサクラソウのようだ。小さなサクラソウの仲間は、ユキワリソウだろうか？ベニバナイチゴも、今が花の盛りだ。

多くの花を楽しみながら八方尾根を登っていく。白馬三山は雲に隠れ、残念ながら八方池に写る三山は見られなかった。下の樺を過ぎ、扇雪溪を過ぎると、丸山ケルンだ。ここで昼食とする。

尾根をトラバースすると、山荘は近い思ったが、なかなか着かず、何度もだまされた〜と思ったころ、山荘がひょいと現れた。山荘の夕食は、カレーではなかった。明日の朝は、出発が早いので、朝食は弁当にしてもらう。

さわやか信州号では、ほとんど寝られなかったため、明日に備えて、夕食後早々に床に入った。

☆7月17日

2時頃、外に出てみると満天の星空だった。

早朝、剣岳の上には、満月の月が輝いていた。多くの人たちが、3時ころには起き、出発準備を始めている。我々も、3時半に起床し、朝食を食べて出発する。今日は、核心部の不帰嶮を通過するため、時間に余裕を持って早めに行動したい。

黎明の山々や、日の出、朝日を浴びた山々などを楽しみながら、まずは唐松岳の山頂に立つ。剣岳から立山、薬師岳、赤牛岳、針ノ木岳、蓮華岳、遠く槍ヶ岳や穂高岳、そしてすぐ近くの五竜岳などが連なっている。遠くには、浅間山、八ヶ岳、富士山、南アルプスなどがよく見えている。下は大雲海だ。これから向かう、不帰嶮や天狗の頭、鑓ヶ岳もよく見えている。



唐松岳山頂から見た五竜岳

記念写真を撮った後は、不帰嶮に向かう。まずは、普通の縦走路が2峰の南峰まで続く。コマクサやミヤマシオガマが美しく咲いている。

2峰の南峰に着くと、これから向かう北峰まではかなりの痩せ尾根であることが見通せる。

ここからが核心部のような。両側が切れ落ちた痩せ尾根を慎重に通過する。北峰からは、かぶり気味の岩を横切るところから始まる。ロープを持ってきたので、HさんとKさんに、私と繋がってもらい、KさんがHさんをリードする形で下ることにする。他の人たちは、鎖などがあるので、ロープは使わずに下ることにする。



不帰嶮2峰の下りは岩場が続く

次々に現れる鎖場を慎重に下っていく。ここは、2峰尾根の上部になる。しばらく下った後は、2峰をトラバースして、縦走路に戻っていく。危険箇所は過ぎたのかなと思ったが、まだ最後の尾根の下りがあった。岩の切れ目に、ぶらぶら揺れる鎖と、下までよく見える細いハンゴがかけられている。登ってくる人が終わったところで、こちらでも慎重に下っていく。その後も、何ヶ所か鎖場を通過し、ようやく2峰を超えることができた。



ロープで確保されて下るHさん

1峰の登りは特に問題になる箇所はない。ふり返ると、今下ってきたところを登っている人が見えるが、確かに危険マークが付くだけあって、非常に険しいところだ。

1 峰を超え、不帰キレットから天狗の大下りを登り始める。ここは、標高差300mほどある厳しい登りだ。浮き石の多い岩場に鎖がかけられている。ふり返ると、不帰嶮が1 峰から3 峰まで見え、その向こうに唐松岳が見えている。ここは、厳しい登りだが、ミヤマオダマキが咲き、ウルップソウやコマクサもたくさん咲いている。これらの花は、これから先、白馬岳に近づくほど、増えていった。



2峰の下り下部をふり返る

天狗の大下りを登り終えたところで、休憩する。ここからは気持ちの良い尾根歩きとなる。後には、鹿島槍ヶ岳なども見えてきて、まさに稜線散歩だ。天狗の頭に着くと、これから目指す鑓ヶ岳が、真っ白な山肌を見せている。石灰岩でできているのだろうか？

頭で休憩するより、天狗山荘の方が冷たい水が思う存分飲めるという情報があり、そのまま通り過ぎて山荘まで行くことにする。この道も高山植物がすばらしく、私は写真を撮りながら、みんなより遅れて行くことにする。

天狗山荘周辺もすばらしいお花畑だった。雪渓が溶けた水が流れていて、確かに冷たくておいしい水を飲むことができた。ここで昼食を食べ、ここからは雪渓登りとなる。

白馬鑓温泉への分岐を過ぎ、鑓ヶ岳への登りにかかる。高山植物はとぎれることなく咲いていて、とても楽しい。子連れのリョウウを見ることもできた。杓子岳は、山頂に登らず、トラバースルートを使って、そのまま通過する。我々と前後して歩いていたテント泊の単独行

の女性は、山頂を往復してきた。強い人だなと感心する。



ウルップソウ

杓子岳を過ぎると、さらにすばらしいお花畑が次々に現れる。白馬連山は、北海道の大雪山に負けず劣らずの、すばらしい花の山だった。この頃には、さすがに疲れが溜まってきて、Nさんのペースが落ちてきたが、それでもがんばって登っていく。目の前の霧が晴れて、白馬岳がはっきり見えるようになった。最後にご褒美をもらえたようだ。



白馬槍ヶ岳を見ながら歩く

ようやく村営頂上宿舎が見えてきた。小屋とテント場周辺もシナノキンバイ、ミヤマキンボウゲ、ハクサンイチゲなどのすばらしいお花畑だ。ウルップソウやミヤマオダマキもたくさん咲いている。

小屋の入口に着いた頃、ポツポツと雨が降り始めた。小屋に入って休憩していると、雨は本降りになってきた。雨が降る前に着いて、超ラッキーだった。夕食は、バイキングで、ちょっと食べ過ぎてしまったようだ。それでも、談話室でくつろいでいると、他の若いパーティーと

も話が盛り上がってきた。私は、おもしろいお父さんと言われたが、山仲間アルプのホームページも紹介させていただいた。



☆7月18日

朝食は弁当ではなく、食堂でバイキング形式で取る。4時30分からのので、食べ終わってから、Hさん、Uさん、そして私の3人で、白馬岳山頂を往復する。お花畑はとぎれることなく続いている。旭岳が間近に見え、黒部川を挟んだ向こうには、毛勝三山もよく見えている。山頂に立つと、毛勝三山の右手に能登半島が見えている。さらに、雪倉岳とその左奥に朝日岳も見える。そこから日本海まで拇海新道が続いている。

妙高連山と戸隠も見える。浅間山もよく見え、ハヶ岳も見える。富士山は山頂を雲に隠していた。剣立山は元より、鑓ヶ岳の向こうには、鹿島槍ヶ岳や五竜岳も見える。その向こうには、槍穂高連峰も見え、360度の大展望だ。

Uさんに見える山の説明をしたが、間違っているところもあったようだ。大展望を楽しんで、下山にかかる。

頂上宿舎で、Nさん、Kさん、Iさんと合流し、名残惜しい山小屋を後にする。白馬岳は残雪が多い。そこかしこに雪が残っている。雪の消えた斜面は、すばらしいお花畑が広がっている。小雪溪をトラバースし、浮き石の多い斜面を下る。ねぶか平周辺は、数年前大規模な落石があったところではなかっただろうか？ 注

意しながら下るが、非常に浮き石が多い。

今回の山行の最後は大雪溪の下りだ。杓子岳の方から大規模な岩崩れが起きて、雪溪の上には、おびただしい数の岩が散乱している。落石に注意しながら、ぐんぐん下っていく。下まで滑り落ちるような傾斜ではないため、靴底で滑りながら下りる。Hさん、Kさんも、ところどころで滑り、楽しみながら下りてくる。Kさんは、スーパーバッグを取り出し、尻に敷いて下っていたが、うまく滑れたのだろうか？ 慎重派の人たちも無事に雪溪下りを終えた。1時間足らずの快調なペースで下ることができた。



キヌガサソウがたくさん咲いているところを過ぎると、猿倉に到着する。トイレを借りて、すぐに出発する。

林道に出て、オオルリやキビタキの歌声を聞きながら歩いていくと、猿倉に到着した。八方で温泉に入り、昼食を食べたいため、タクシーを呼んで、早く下りることにする。別の少人数のグループにも同乗してもらって、お互いに安く下ることができた。

八方の第一郷の湯で汗を流し、うどんを食べ、さわやか信州号に乗り込んだ。渋滞で今日中に家に着けるか心配だったが、ぎりぎり午前様になる前に、着くことができた。

岩稜あり、大展望あり、たくさんのお花畑があり、そして大雪溪ありの、密度の濃い山でした。そして、密度の濃いメンバーに、乾杯～！！

コースタイム

7/16 第一ケルン(7:20) … 八方池
(8:50-9:00) … 丸山ケルン(10:55-11:30)
…

唐松岳頂上山荘(12:45)

7/17 唐松岳頂上山荘(4:40) … 唐松岳
(5:00-5:20) … 不帰岳1峰

(8:10-8:20) … 天狗山荘
(11:20-12:00) … 鑓ヶ岳(13:30) …
村営頂上宿舎(16:15)

7/18 村営頂上宿舎(5:10) … 白馬岳
(5:40-5:55) … 村営頂上宿舎
(6:25-6:50) … ねぶか平(7:45) … 白
馬尻(9:35-9:40) … 猿倉(10:30)

★雲ノ平(8月6日～9日)

参加者 会員(障害者4名、健常者5名)

☆8月6日

夜行バスで富山駅に着き、電車とバスを乗り
継いで、折立まで行く。雲が厚く、空模様が心
配だったが、折立に着いたときは、すでに雨が
降り出していた。

登山口で雨具を着て準備をしていると、声を
かけてくる人がいた。最初、顔を見ても誰かは
っきり分からなかったが、六つ星山の会にいた
時、一緒に山に登ったことのあるHさんだった。
10数年ぶりの再会に、感激だった。お互いに
頭に白いものが目立つようになったが、元気そ
うで、何よりだった。何か用があるようで、一
緒に来たメンバーより先に下りてきて、早いバ
スに乗っていった。

こちらは、自己紹介をし合い、急な登山道を
登り始める。しばらく登っていくと、Hさんと
同じパーティーのMさん、Tさんたちが下りて
きた。Mさんとも久しぶりだが、相変わらずの
毒舌で、「昨日は快晴だったけど、行いの悪い
人が来たから雨になった」と言う。こちらも、
「Mさんが山から下りるので、これから良くな
るよ」と返す。

雨具を着ていると、暑くて汗をかいてしま
うため、雨が止んだところで雨具を脱ぐと、また
降り出す。そんな状況で、降ったりやんだりの
繰り返しだった。

急登が終わり、三角点の広場に出る。ここか
らは、太郎平まで緩やかな登りとなる。この登
山道にはキンコウカが多く、一面に咲いている
ところがあった。草花には、水滴がついて美し
い。タテヤマリンドウやミヤマリンドウ、イワ
ショウブなどが咲き、雨が止んだ時に写真を撮
らせてもらう。

五光岩ベンチで昼食タイムとする。一部だが
霧が晴れて、五光岩やこれから向かう太郎平小
屋も見えた。ニッコウキスゲの群落があったり、
チングルマの綿毛がたくさんあり、ずっとお花
畑だった。

太郎平小屋に着き、乾燥室で雨具などを乾か
す。食堂でくつろいでいると、外は土砂降りと
なり、雷も近くでなり始めた。少し前に着くこ
とができて、ホッとした。すると、Fさんの知
り合いの先生が、ボランティアで小屋にいらっ
しゃった。話が弾み、いろいろと教えていただ
いた。

今日、赤木沢に沢登りに来たHさんが、太郎
平小屋に来る予定だったが、まだ着かないので、
増水や雷にあっていないか心配になったが、か
なり遅い時間になって到着した。

夕方、雨が上がり、薬師岳や黒部五郎岳など
が見えるようになってきた。このまま、明日は
良い天気になることを願って、床についた。

☆8月7日

朝、起きるとすばらしい天気だった。山の陰
でご来光は見えないものの、少し薬師岳方面の

木道を歩いて、槍ヶ岳を見に行った。



太郎平にて(後は雲ノ平方面)

今日、山を下りて、明日の会議に出るHさんと別れ、北ノ俣岳方面をトラバースしながら、黒部川を目指して下っていく。昨日の雨に濡れた木々や草花が美しく輝いている。ニッコウキスゲの群落もすばらしい。行く手には、今日登っていく雲ノ平がよく見える。水晶岳や鷲羽岳もよく見える。

しばらく下っていくと、薬師沢に到着する。沢にかかる橋を渡り、多少のアップダウンを交えながら、クマザサ帯を下る。太陽の光に、木々についた水滴がきらきら光り、まぶしくも美しい。水場も何か所もあり、水には困らない。日本一おいしい水場だと薬師沢小屋から登ってきた人が教えてくれた。他の水場との違いは分からなかったが、おいしかった。



クマザサの草原を下る

右手に黒部五郎岳が見えるようになってくると、薬師沢小屋は近い。黒部川と薬師沢の両方見える痩せた尾根を通過して下っていくと、薬師沢小屋に到着した。

黒部川には、澄んだエメラルドグリーンの水

が流れている。この川の上に付けられたつり橋を渡って、対岸に移る。足を踏み外すと大変なので、みんな慎重にサポートしている。しかし、橋を渡ってからも岩場に付けられた梯子はなかなか厳しく、慎重に2回梯子を下って、川に降り立つ。



エメラルドグリーン of 黒部川

その先には、短いけれど手すりなどがない細いアルミの橋を渡ってから、登りにかかる。いきなりの急登で、手を使って登るほどだ。しばらく登ると、滑りやすい大きく丸い石が積み重なったようにどこまでも続く。暗い雲が広がり、空模様も怪しくなってきた。しかし、振り返ると、今朝出発した太郎平小屋が見えてきた。かなり高度も上がってきた。



滑って歩きにくい大岩の道を登る

しかし、雨が降り始め、雷もなり始めた。ここは樹林帯なので、雷の心配はあまりないが、雨具を身に付けると、とにかく暑く、汗が噴き出してくる。雨の勢いも激しくなってきた。それでも標高が上がり、樹林の間から空が見えるようになってくるので、急登もそろそろ終わりなのではないかと期待をする。

長かった急登もようやく終わり、木道の末端に到着する。このコースは登りでよかった。下りでは、滑ってかなり危険だったと思う。

木道の末端に着いても雨はまだ強く、雷も鳴っている。しかし、アラスカ庭園に着くと、次第に雨が小降りになり、薬師岳方面や野口五郎岳方面が見えるようになってきた。歩いていると、黒部五郎小屋が、霧の中から見えるようになってきた。明日、目指す祖父岳も見えてくる。日も差してすっかり暑くなるころ、今日泊まる雲ノ平山荘も見えてきた。水晶岳もよく見える。



奥日本庭園からの展望や池塘を楽しみながら木道を緩く登っていくと、今晚の宿、雲ノ平山荘に到着した。男性は3階、女性は2階に場所を指定された。

外に出て、ビールを飲みながら小さな声で歌っていると、仲間に加わる人も現れた。「山の子の歌」が詳しいらしく、何度も歌っている。別なグループは、吉田拓郎が好きなんだという人がいて、その年代の歌を一緒に歌って楽しんだ。

小屋で休んでいたら、何ととなりにはいた人は、以前、山仲間アルプの会員で、先日、甘利山でお会いしたばかりのHiさんだった。今年2回も会うとは、何という奇遇だろう。今回もまた、プレゼントをいただいていた。

「山の子の歌」に詳しい人は、わざわざ私を探して、もう一度歌おうと迎えに来る。早く寝たかったが、仕方がないので付き合い、外に出て山の歌を歌おうとしたら、その人たちは「山

の子の歌」以外、何も知らないという。「坊がつる賛歌」や「信濃恋歌」などを歌ってあげたら、感動して喜んでくれた。

☆8月8日

3時過ぎに外に出てみると、満天の星空だった。流れ星もいくつか見られた。ところが、少し明るくなり始めた4時頃、急に全天が雲に被われてしまった。今日はいったいどういう天気になるのだろうと心配になったが、明るくなるにつれて、次第に天気は良くなった。

今朝は、今日の長い行程を考え、朝食を弁当にしてもらった。水場への分岐となる雷岩で朝食とする。水場で水筒を満たし、少し歩くとスイス庭園への分岐があったので、立ち寄ってみる。スイス庭園は、薬師岳を間近に見ることのできるすばらしい場所だった。



ここから、祖父岳に向けての登りとなるが、祖父岳はなかなか遠かった。ハイマツ帯に入り、東側の斜面を通り、さらに背丈を超えるくらいのハイマツ帯を登っていく。

チングルマの綿毛に付いた水滴が美しい。まるで宝石をちりばめたようだ。何のことはない草むらも、誰かの表現を借りると、「七色の虹」がまさにぴったりの表現と思える美しい水滴だった。

間近に黒部五郎岳と薬師岳、水晶岳、赤牛岳などを望み、遠くに立山と剣岳を望みながら、祖父岳の山頂を目指す。山頂に到着すると、今まで見られなかった槍穂高連峰がしっかりと

見られるようになった。近くに三俣蓮華岳と三俣山荘が見え、その左には笠ヶ岳もよく見えている。鷲羽岳からワリモ岳もすぐそこに見える。すばらしい展望だ。昨日から歩いてきた太郎平周辺から雲ノ平もよく見える。



チングルマの綿毛に着いた宝石のような水滴



すばらしい展望の祖父岳山頂にて

祖父岳からの下りは、1箇所、危険なところがあり、慎重に下る。すばらしい青空だったが、次第に雲が広がってきた。今日も、夕立には要注意だ。



縦沢岳(中央右)と槍穂高連峰、手前右に三俣山荘が見える(祖父岳山頂から)

黒部川の最源流部となる岩苔乗越で休憩し、ワリモ分岐に向けてジグザグに登る。分岐からは水晶小屋に向けての気持ちの良い尾根だ。水

晶小屋に着くと、これから向かう野口五郎岳が真っ白に見えていた。その手前には、手ごわそうな東沢乗越への稜線が見えている。今回、一番の難所になるだろう。

水晶小屋の下はウサギギクなどのすばらしいお花畑だった。しかし、そこを過ぎると、足下の切れた険しい稜線が続く。とにかく、三点支持などを使って慎重に通過してもらう。険しい尾根を過ぎると、今度は大きな岩がゴロゴロする、視覚障害者の人たちにとって最も厳しい尾根が続く。ここを過ぎて、真砂岳の下に着くと、ようやくホッとすると。これから向かう野口五郎岳に続く登山道がよく見える。



水晶小屋から野口五郎岳までは厳しい岩場が続く

チシマギキョウやイワギキョウ、タカネシオガマなどがたくさん咲いている斜面を登っていくと、野口五郎岳の先の稜線に飛び出した。すでに霧に被われているが、野口五郎岳に登り、集合写真を撮る。これから向かう野口五郎小屋が霧の間から見えていた。



今回の最高峰、野口五郎岳山頂にて

野口五郎小屋は、感じの良い管理人さんのおかげで、とても気持ちよく利用させていただ

た。夕食後、食堂の隅で小さめの声でみんなで青春時代の歌を歌っていると、一人の男性が歌を聞きたいと寄ってきた。聞くだけでなく一緒に歌いましょうと言ったら、「飯豊の山男」を歌ってくださった。はじめて聞く歌だったが、とてもすばらしい歌だった。その方も新潟県出身だった。

☆8月9日

朝、4時頃起きて外に出ると、すでに星の輝きが失われつつあった。それでも、Tさんが流れ星を見られたと喜んでた。今日もすばらしい天気、大天井岳から唐沢岳まで、スッキリと見えている。私は、5時からの朝食前に北側のピークに登って、日の出を待った。そこからはこれから向かう烏帽子岳から針ノ木岳、鹿島槍ヶ岳、そして白馬岳まで見えていた。



野口五郎小屋にて

朝食を取り、出発準備をしていると、小屋の管理人さんが小屋の前で私たちの写真を撮ってくださいさという。気さくで親しみの持てるとても良い管理人さんだった。一晩、ありがとうございました。小屋の入口にある温度計は、5時頃、9℃を指していたそうだ。

途中、何ヶ所か大きな岩がゴロゴロするところがあったが、先日ほどではなく、それ以外はすばらしい展望を窓に歩ける、まさに稜線散歩の楽しさだった。

行く手には、白馬岳までの後立山の山々と、左手には剣岳、立山、五色ヶ原、越中沢岳が見え、赤牛岳とその後に薬師岳も見えている。水

晶岳と昨日登った野口五郎岳、そしてその左に槍ヶ岳が見えてきた。北穂高岳のピークも見えている。さらに、東鎌尾根と大天井岳から燕岳、餓鬼岳、唐沢岳まで、このコースは裏銀座コースだけあって展望は最高だ。



槍ヶ岳を背に好展望の稜線を行く

三ッ岳へは展望コースではなく、お花畑コースを行く。最初、風がなく日当たりが強くて失敗したかなと思ったが、途中のお花畑はすばらしく、まだ残っていた雪渓で、滑って遊ぶこともできた。



コマクサがまだ咲いていた

たくさんのコマクサが咲くところを過ぎ、烏帽子ヒョウタン池の近くのテント場は、池の向こうに燕岳などが見える、すばらしいシチュエーションだ。ただ、虫は無視できないだろうな。

烏帽子小屋の前は、イワギキョウのお花畑だった。こんなにまとまって咲いているのは初めて見たが、花はやや終わりかけているようだった。

小屋で昼食を取り、いよいよブナ立尾根の下りにかかる。急坂だがしっかりとした登山道を順調に下っていく。と思っていたが、予想より

時間がかかり、かなり遅くなるのではないかと心配になったので、歩く順番を変え、Fさんにはザックに掴まって歩いてもらうことにした。



烏帽子ヒョウタン池と燕岳(左)、大天井岳(右)

少し、ペースが上がり、1時間で300mほど下れるようになった。私は足がガクガクになり始めたTuさんのサポートをして下っていく。苦しい下りがんばり、斜面をトラバースしていくと、最後の急坂に出て、ジグザグに下る。下りきったところは、高瀬ダム湖に注ぐ濁沢だった。不動岳などの岩や泥を集めて濁った土色をしている。

しかし、平坦地に下りてホッとして歩く。長い吊り橋を過ぎると長いトンネルとなる。そこを過ぎると、高瀬ダムに飛び出す。タクシーを呼ばなければと急いだが、タクシーが4台待っていてくれた。何でも、昨日、一緒に歌を歌った新潟県の人が、後から9人下りてくるから、タクシーを呼んでほしいと伝えてくださったらしい。おかげで、待ち時間なくタクシーに乗れ、本当にありがたかった。

★富士山（子ども登山教室スペシャル）（8月28日～29日）

参加者 会員(障害者4名、健常者6名)
会員外(健常者1名)

☆8月28日

昨日は大雨だったが、今日は回復して青空

大町の薬師の湯に入って、汗を流し、さっぱりして再びタクシーに乗って、信濃大町駅に向かう。長い山旅で、さすがに疲れたが、やり遂げた充実感に満たされて、暑い暑い都会へと向かった。

最後までがんばった視覚障害者のみなさん、そしてサポートをしてくださったみなさん、本当にありがとうございました。今年一番のビッグ山行を無事に終えることができました。

コースタイム

8/6 折立(8:00)…三角点(10:00-10:15)…五光岩ベンチ(12:00-12:25)…太郎平小屋(13:10)

8/7 太郎平小屋(5:50)…左俣出合(8:15)…薬師沢小屋(9:40)…木道末端(14:20)…雲ノ平山荘(15:50)

8/8 雲ノ平山荘(4:40)…雷岩(5:05-5:50)…祖父岳(7:30-7:55)…岩苔乗越(8:50-9:00)…水晶小屋(10:20-10:40)…東沢乗越(11:40-11:50)…真砂岳分岐(13:45-14:00)…野口五郎小屋(15:30)

8/9 野口五郎小屋(5:45)…三ッ岳(8:05)…烏帽子小屋(9:45-10:20)…2208m三角点(11:50-12:00)…高瀬ダム(15:20)

が見える。しかし、富士山は雲に被われて富士宮からは見えなかった。

バスは、富士山本宮浅間大社のある湧玉池で20分ほど止まった。池には、大きな鱒や鯉が泳ぎ、ギンヤンマなどが飛んでいた。

五合目に着いた時はまだ雨は降っていなかったが、歩きはじめようとした時に降ってきたので、すぐに雨具を着る。

今回は、小学1年生のY君が初参加だ。ところが、歩きはじめてすぐにぐずりだしたようだ。岩場の登りは元気になるが、単調な登りはあきるのだろうか？ それでも、少しずつ慣れてきたのか、順調に登るようになってきた。



雨の中、五合目から登りはじめる

歩きはじめて30分ほどで六合目の雲海荘に着く。ここは宝永山への登り口でもある。この頃には、雨もほぼ止んでいた。

少し登ると、宝永山が見えるようになってきた。そして、霧が少し晴れて、霧の向こうに大雲海が見えた。また、今日泊まる新七合目の御来光山荘も見えてきた。

富士山は上に行くほど植物が少なくなるが、この付近は、まだミヤマアキノキリンソウやヤナギランが咲いている。タデの仲間、オンタデやオヤマソバ、オノエイトドリではないだろうか？ タデの仲間は、一面に咲いている。

御来光山荘に着いたら、まずは集合写真を撮る。明日は、真っ暗なうちに歩きはじめるので、今日の内に撮らないと、もう小屋の前で撮るチャンスがなくなる。



一晩泊まった新七合目御来光山荘の前で

山荘の夕食は、富士山の定番、カレーライスだった。朝食の弁当をもらって、早々に床につく。今日は、1人で2人分のスペースを使えたので、とてもゆったりと眠ることができた。

ただ、夜中にY君が戻してしまい、Tさんが汚れた布団をふいてくれたり、持ってきた酸素を吸わせてあげたりしてくれた。こういう大変なことを淡々としてくれるTさんに頭が下がると共に、心から感謝します。その後、Y君は、寝息を立てながらぐっすりと眠っていた。

☆8月29日

2時頃起床する。外に出ると、満天の星空だった。また、夜景もすばらしい。

Y君の調子がどうか心配だったが、まだぐっすり寝ているので、出発直前まで寝てもらうことにする。出発直前に起こして、頭が痛いか聞いてみると、痛いという。気持ち悪いようだ。それでも、少し登ってみるか聞いたが、ここでみんなを待っているとのこと。待っているわけにもいかないので、Kさんが付き添って、Kさんの判断で、少し休んでから下ってもらうことにする。

KさんとY君と別れ、本隊は2時45分に出発する。まだ真っ暗なので、ヘッドランプが威力を発揮する。時々、ライトを消し、星空を見上げる。オリオン座や牡牛座、スバルなどがよく見え、まさに満天の星空だ。



雲間から顔を出した御来光

4時頃になると、東の空が少し色づいてくる。星空は、逆にだんだん色あせてくる。最後まで

見えていた星はシリウスだろうか？

八合目を過ぎたころ、雲の間から真っ赤な太陽が顔を出した。すりガラスのような雲を通して見えた太陽だろう。輝くというよりは、赤く丸い太陽だった。そして、その上の雲を金色に染めて、雲の上に顔を出してきた。周囲は一気に赤く染まり、輝きに満ちた。



影富士が見られた

九合目の万年雪山荘を過ぎ、九合五尺の胸突山荘で、最後の休憩とする。あともう少しで山頂だが、酸素が薄く、ここからが苦しい登りとなる。SさんとFさんがまず山頂に立ち、Iさんも山頂に到着する。私とSさんは、後のグループを迎えに行く。Sさんが、Mさんのザックを持って登ってくれた。いつも力強く、みんなを迎えに行き、ザックを持ってくれるSさんにも本当に感謝です。

全員が、富士宮口山頂に到着し、休憩した後は、剣ヶ峰に向かう。火口が荒々しく見渡せる。剣ヶ峰は、さらに高いところに聳えている。ここまで来ると、一步一步がさすがに重く感じる。それでも剣ヶ峰に到着し、山頂標識前で写真を撮る列に並ぶ。Mさんが来ないので、多分途中で帰ったのだろうと思い、8人で記念写真を撮る。さらに展望台に上がって景色を見るが、すでに南アルプスなど、他の山々は、雲に隠れて全く見えない。早々に展望台から下り、写真を撮る順番待ちをしている人たちの脇を通過、Mさんが待っている富士宮口山頂に戻ろうとした時、Mさんがひょっこりと現れた。今から思うと、標識のところでなくても、剣ヶ峰のど

こかで写真を撮ってあげれば良かったのだが、その時はさらに列に並んで待つのは無理なので、帰りましょうとそのままMさんに引き返してもらってしまった。本当に、申し訳ないことをしてしまった。



日本最高所剣ヶ峰にて

富士宮登山道は、吉田口登山道に比べると、はるかに人が少ないため、登山道と下山道が同じだ。涼しい山頂を後に、下山にかかる。雲は9合目くらいまで上がってきていた。予報では、今日の午後は雷が来るそうだ。雨に会う前に下りたいものだ。しかし、ふり返ると、山頂の方は、真っ青な空が広がっている。



富士宮口山頂にて

登ってくる時は開いていた八合目の小屋は、すでに雨戸が閉まっていた、営業を止めてしまっていた。私たちが泊まった新七合目の御来光山荘も、帰りに寄ったら、すでに布団を全部食堂に集めて紐で縛っていた。多くの小屋が、今日で営業を終えるようだ。私たちは、今年度、最後の泊まり客だったようだ。

山頂から下りはじめたのが予定よりかなり早かったので、もしかしたら計画より1本早い

バスで帰られるのではと思ったが、あと一步で間に合わなかった。しかし、おかげで五合目のレストハウスで、下山祝いの乾杯と食事ができた。ポツポツ降り出した雨も、それ以上強くなることはないようだった。

バスの車窓から、トモエシオガマやシャジンの仲間などを見ている内に、眠りに落ちた。行きも帰りもふもとから富士山を見ることはできなかったが、私たちが来る前日の土曜日は、土砂降りだったようで、その後のわずかな好天の下で登ることができて、とてもラッキーだった。今年最後の夏山を無事に締めくくることができたことを富士山の神様に感謝して、身延線の電車に乗り込んだ。

Y君は、その後Kさんと共に、本七合目まで

登り、さらに上まで登り、みんなと合流したいと言っていたそうです。空身で登ったので、引き返したそうですが、Y君はきっと山を好きになるだろうなと思います。

コースタイム

8/28 富士宮口五合目(13:10) … 六合目(13:40-13:45) … 新七合目(15:00)

8/29 新七合目(2:45) … 元祖七合目(3:35-3:50) … 八合目(4:35-4:45) … 九合目(5:25) … 富士宮口山頂(7:00-7:40) … 剣ヶ峰(7:50-8:40) … 富士宮口山頂(8:50-9:15) … 九合目(10:15-10:30) … 五合目(13:30)

ハイキング報告

★第28回ふれあいハイキング（さきたま風土記の丘）（6月4日）

参加者 会員(障害者2名、健常者8名)
会員外(健常者2名)

と言っている。カラスの仲間なので声はよくないが、姿は美しい。オナガは、今回のハイキングで何度も見る事ができた。

上野駅から日比谷線、東武線、秩父鉄道と乗り継いで、武州荒木駅に降り立つ。今日は、すばらしい天気恵まれた。秩父鉄道は単線のため、反対方面の電車が来ないと、待っている電車は発車しないため、電車のすぐ前にある踏切で待たされた。

武州荒木駅で全員集合し、自己紹介の後、歩きはじめる。まずは、真観寺(しんかんじ)古墳を目指す。真観寺古墳は、前方後円墳で、全長11.2mあるそうだ。古墳の上は、樹木などが茂っていた。

次は、地蔵塚古墳に向かう。秩父鉄道を渡って、水田の中を歩く。麦畑も穂がきれいに伸びていた。近くの木の上で、オナガが「ギューイ」



オナガ

なかなか竜泉寺が現れず、道を間違ったかなと思ったが、ようやく竜泉寺が現れ、そこを過ぎたところで、民家の方に道を聞き、地蔵塚古墳にたどり着いた。ここは、上に建物が建ち、小さな公園になっていた。ここで、休憩し、次は八幡塚古墳を目指す。

八幡塚古墳は、「関東の石舞台」とも言われるそうで、立派な石室が復元されていた。昔の

人は、どうやってこんな大きな石を積んだのだろうか？



八幡塚古墳の石舞台の上で

次は、成就院の三重の塔を探す。今回、案内の看板があったのは、八幡塚古墳だけで、他はガイドブックの地図だけが頼りだった。三重の塔をようやく探しだし、成就院に到着できた。

次は、いよいよさきたま風土記の丘だ。地元の方に道を聞いたが、どうもこの道はガイドブックにあるものと違っていただ。しかし、すぐ近くに大きな古墳がたくさん見えていたので、迷うことはなかった。川や池があり、芦の上でオオヨシキリが元気にさえずっていた。

道路を曲がって、さきたま風土記の丘に入る。すぐに現れたのは、将軍山古墳だ。左手には、きれいなポピーの花の向こうに二子山古墳がある。さすがにおながが空いてきたので、広場の桜の木の下で昼食にする。今日はかなり気温が高そうだが、木陰はさわやかでとても涼しい。ここでもオオヨシキリが元気にギョギョシと鳴いている。

昼食の後は、日本最大の円墳といわれる丸墓山古墳に登ってみる。標高差は19mあるらし

い。階段の数を数えたSさんは、ちょうど100段あったという。古墳の上からは、風土記の丘がよく見え、行田市もよく見えていた。空気が澄んでいたら、日光や上越の山々も見えるのではないだろうか？



丸墓山古墳の上で

埼玉古墳群とさきたま風土記の丘は、埼玉県発祥の地だそう。風土記の丘を後にして、最後の目的地、忍城趾を目指す。舗装道路は、ものすごく暑く、かなり汗ばんできた。途中の水上公園では、公園内を歩く。木々の近くはやはり涼しい。

忍城趾は立派なお城が復元されていた。休憩していると、何か出し物があると教えていただいたが、見たい人と帰りたい人に分かれたため、ここで解散することにする。暑い中、みなさま、お疲れさまでした。

コースタイム

武州荒木駅(9:30)…小見真観寺古墳(9:50)…地蔵塚古墳(10:30-10:40)…さきたま風土記の丘(12:25-13:10)…忍城趾(14:00-14:25)…行田市駅(14:40)

★第6回ふれあいキャンプ（みの石滝キャンプ場）（8月20日～21日）

参加者 会員(障害者2名、健常者7名)
会員外(健常者1名)

今年で6回目となるふれあいキャンプは、奥多摩から相模湖に変えて実施した。今回の目玉は、カヌー教室だ。雨が心配だが、今のところ曇り空で、降りだしてはいない。

相模湖駅で、キャンプ場に電話をして、山口ボートまで船に迎えに来てもらう。このキャン

☆8月20日

プ場は、車などでは行くことができず、必ず船でなければ行かないおもしろい場所にある。

迎えに来てもらった船に乗ってキャンプ場に向かう。あまりきれいな湖とは言えないが、相模湖の東側を通り、最も南東側に奥まったところにあるキャンプ場に到着する。すでに、多くの子どもたちがカヌー（実際にはカヤック）を楽しんでいた。

受付を済ませ、バンガローで昼食とする。カヌー教室は、午後1時からとなったため、それまで昼食を取りながら、持ってきたポータブルDVDプレーヤーで、過去に行った山のビデオやリーダー養成のビデオを見て楽しむ。

午後1時からいよいよカヌー教室だ。今回は、3人がカヌーには乗らないとのことなので、先生の船に乗って、写真撮影などをしていただくことにした。

まずは、注意事項の説明、そして準備体操を行う。それからパドルの使い方を練習する。先生から、日本では、全てカヌーというが、今回乗るのは実際にはカヤックで、カナディアンカヌーはもっと大きく、シングルブレードのパドルで漕ぐのだという。なので、以降は、カヤックといいます。

次に、カヤックに乗る方法を教えてもらう。S君が、実際にモデルになって教えてもらう。しっかりと乗り方を覚えたようだ。

いよいよ、実際に湖に行って、カヤックに乗る。まずは、S君が乗って、漕ぎ出していく。続いて、KRさん、Kさん、Tさん、Aさん、Yさん、Mさんの順番で漕ぎ出していった。

真っ直ぐ進む方法を確認し、緩やかに曲がる方法や、その場で曲がる方法などを実際に確認してみる。バックする方法も大丈夫だった。

あとは、自由に漕いで楽しむ。KRさんとS君とスピード競争もした。湖の一番奥まで行くことができると、船の上にいるYKさんから聞いたので、行ってみることにする。浅瀬になると、小さな魚がカヤックの中に飛び込んできた。

私のところには一度の3匹も入ってきた。TさんとS君も同じところに来て、満員になってきたので、Uターンして引き返すことにする。その時、とうとう、転覆してしまった。浅瀬なので、乗るのは難しくないが、それでも簡単には乗れず、一度失敗してしまった。



黄色いカヤックが似合うS君

広いところに出て、KRさんを探してみると、出てはいけな浮きの外に出てしまっていた。よく見えずに出てしまったのだろう。私が大声で呼び、近くまで来たが、入口が良く分からないので、先生の乗った船が誘導に行ってください。

その後も、漕いで楽しむ。別なグループのお兄ちゃんが湖に落ち、何度かのトライでカヤックに乗った。こちらは余裕で見ていたのだが、その後なんと2回目の転覆となってしまった。何とか上がったと思ったら、安定せず、また湖の中へ。もう一度トライして、何とかカヤックに乗ることができた。当然、足は全く立たない場所だ。

船は時々、スピードを出して、波を立ててくれる。バランスを取って転覆しないようにしているが、カヤックの中には水がたっぷりと入ってくる。もう水の中に座っている感じだ。S君やKRさんと水かけっこをして楽しむ。Yさんにも水をかけていたら、バランスを崩して、Yさんも転覆した。ようやく仲間ができて、良かったと思う。船が応援に来てくれて、Yさんもカヤックに乗ることができた。

カヤックの教室を終わり、シャワーを浴びた

後、料理づくりにかかる。今日の夕食は、パエリアと野菜の多いバーベキューなどだ。ビールを少々飲みながら、楽しい夕食タイムとなる。



KRさんのギターで盛り上がるキャンプファイヤー

続いて、キャンプファイヤーだ。キャンプ場の一番奥の方で、火を囲み歌っていると、若い人たちが数人集まってきて、一緒に楽しむことになった。KRさんのギターが夜空にこだまする。恒例のスイカ割りも始まり、楽しんでいると、残念ながら雨が降り出してきた。少し雨足が強くなってきたので、残念ながらキャンプファイヤーはお開きにして、バンガローで楽しむことにする。Tさんが持ってきてくださったフォークソングの歌本にある歌を、KRさんのギターで歌ったが、最後のページまで全体の8割位を歌ったところで、みんな眠りについた。

☆8月21日

朝起きると、かなり雨が激しく降っていた。今日はみの石滝を見に行こうと思っていたが、この雨なので中止とする。



朝食の準備をするS君とYさん

朝食は、ご飯にウィンナー、ゆで卵、それと

みそ汁の予定だったが、味噌を炊事場に出っぱなしにしていたために、動物に囓られた後があったので、味噌は止め、コンソメスープとなった。ご飯もおいしく炊け、少し少な目で、残飯は全く出ないエコメニューであった。

船は9時から運航するという事なので、一番の9時に出発することにして、少しバンガローで休憩する。

雨も小降りになり、キャンプ場の受付の前で集合写真を撮って船に乗り込む。



キャンプ場受付の前で

小学3年生のS君も、カヤックがとても楽しく気に入ったようで、来年もカヌーですかと聞くので、そうだとすると、また参加したいと張り切っていた。

はじめてのカヤック体験でしたが、とても好評で、来年もまた、ここで実施したいと思いました。

コースタイム

8/20 相模湖駅(10:45) … 山口ポート(11:00)ーみの石滝キャンプ場(11:30)カヌー教室(14:00-16:00)夕食づくり(16:00-18:00)キャンプファイヤー(19:00-19:30)

8/21 起床(5:00) 朝食づくり(5:30-6:30)キャンプ場(9:00)ー山口ポート(9:15) … 相模湖駅(9:35)

その他事業報告

★八千代市1%支援制度のPRイベント

今年も1%支援制度のPRイベントが実施され、Oさん、MYさん、TYさんにご協力いただき、街ゆく人たちにピラを配ったり、説明させたりさせていただきました。まだ、市民の多くの方が制度そのものを知らないため、この

イベントによって、知っていただいた方も大勢いるのではないかと思います。ご協力いただいたみなさま、ありがとうございました。

☆シニア就業支援プログラムで活動紹介を実施

社)千葉県シルバー人材センター連合会が企画している「シニア就業支援プログラム」の一環として、「NPO・ボランティアに参加するには」というテーマで行われた講習会で、当法人の活動紹介をさせていただきました。

当日は約20名の参加で、30分ほど話をしました。活動紹介は、当法人とNPO法人ミクロネシア振興協会の2団体だけでしたが、参加

者の方々は真剣に耳を傾けてくださっていました。

当法人の活動を知っていただける機会を作っていたいただいた、社)千葉県シルバー人材センター連合会様と当法人を紹介してくださったNPO法人地域創造ネットワークちば様に、感謝申し上げます。

▲東日本大震災への義援金

定期総会で承認された東日本大震災への義援金として、日本財団ROADプロジェクトに、5万円を7月11日に振り込ませていただきました。

また、登山の時に有志で集めた交通費などの残金は、8月21日現在で65,797円集まっています。こちらは、近日中にROADプロジェクトに寄付したいと思います。

各種連絡事項

▼来年度の事業計画立案

まだ今年度の活動が半分も終わっていませんが、そろそろ来年度の事業計画を立案する時期になってきました。来年度行ってみたい山や、実施してみてもどうかという事業がありましたら、事務局または理事会までお申し出ください。なお、標高の高い山は、年に何度も行かれませんし、選ぶのは難しいのですが、グレ

ードA～Bで、体力のない方も参加しやすい山を、ぜひたくさん紹介していただけたらと思います。また、ほんの少しでも被災地の役に立てればと思い、泊まりで行く山は、できるだけ東北の山を選びたいと考えています。この点もご配慮いただけたらと思います。

▽足立区生涯学習センターで登山教室

今年4月に計画されていた足立区生涯学習センター主催の登山教室が東日本大震災のた

めに延期となっていましたが、9月17日に実施されることになりました。登山を始める若い

人たちが増えていますが、少しでも登山の魅力を伝えることができればと思っています。

また、この機会に当法人のPRもさせていた

だき、共に楽しむことのおもしろさなどをお伝えしたいと思います。

会 員 情 報

◎新入会員のお知らせ

6月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしくお願いします。(敬称略)

正会員

1名

未成年会員(4月の入会でした。前号でお知らせが漏れてしまい申し訳ありませんでした)

1名

編 集 後 記

・理事長のつぶやき

東日本大震災では、多くのボランティアが被災地を訪れて活動を行いました。当法人の会員の方の中にもボランティアとして活動された方も多いと思います。私自身、遅ればせながら、アルプの活動予定がないお盆の週末(8/13~8/16)を利用して石巻市の避難所に行ってきました。もう、避難している方も少なく、食事などもしっかりと提供されていて、有効な活動はあまりできなかったと思いますが、被災された高齢者の方の話を聞かせていただいたことが一番ありがたかったと思っています。

その方は、地震の時は、お孫さんの車で高台に避難したことで助かったのですが、お嫁さんを亡くされたそうです。また、数年前に息子さんを海で亡くされているそうです。

しかし、気丈な方で、これまで経営してきた民宿を素泊まりだけでよいから、また実施したいとおっしゃっていました。その方の知人は、津波で息子さんを亡くされたそうで、息子さんのために編みかけだったセーターを完成させたいと言っているそうです。その方は、「そんなことをしてもつらくなるだけだよ。しっかりと供養して、後は前を向いて生きなければ」と話しているのだとおっしゃっていました。息子さんを海で亡くしたその方だからこそ、言えることだと思いました。

私にできることは、非常に聞き取りにくい方言ですが、それでもしっかりと耳を傾けて聴くことだけでした。でも、それが大切なことだと思っています。

・次回発行予定は、12月です。

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ!!

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで

〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208

NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝

TEL.047-484-8308

